

アイデンティティの社会学	秋 週2回 4単位
担当者：横山 寿世理	
講義の目標及び概要 1. 内容 自己アイデンティティ（＝自我・自分とは何か）を理解するのに役立つ事例をドキュメンタリー番組や新聞記事、エッセイなどを確認しながら、どのような解説が可能かを考える。この解説として、社会学で扱われる種々の自我論を講義で紹介して、事例の考察を深めていく。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は政治経済学科社会学系の専門科目であり、政治経済学科の学生がこの科目を履修するには、専門基礎科目の「社会学」を修得しておかなければならない（他学科の学生も、社会学を修得しておくことが望ましい）。 3. 学びの意義と目標 この講義では、人びとがどんな自分になることを要求されてきたのか、その要求がどのように変化したのかを、さまざまなアイデンティティ論を通じて模索する。その上で、自分という人間の形成（変容）やアイデンティティの構造がどのように説明されてきたのかを社会学的自我論を通して、現代社会や社会的事実を理解することを目標とする。	
評価方法 中間試験30%、期末レポート40%、出席30%で評価する。	
教科書 プリントを配布する	

アメリカ史	春 週2回 4単位
担当者：柴田 史子	
講義の目標及び概要 ◆内容 様々なマイノリティ（少数者）集団の視点から歴史を考える多文化主義の歴史教育が唱えられるようになり、そうした考え方にもとづく教科書も多数出版されるようになった。この授業では、アメリカ合衆国で主流にあり、今日の合衆国を形作ってきたWASP (White Anglo-Saxon Protestant)の視点から捉えたアメリカ史を縦軸に、マイノリティの体験を横軸として捉えながら学んでいく。 ◆カリキュラム上の位置づけ 1～2年生での受講が望ましい。この科目は、「アメリカ文化」「英米文学」「アメリカ思想」といった科目にとっての基礎科目としての役割を担っているためである。 ◆学びの意義と目標 アメリカ合衆国は、世界にとっても、またわが国にとっても重要な国であり、国家、社会、国民の特質を理解する上でも、その歴史の全体像を知ることが肝要である。	
評価方法 中間テスト（30%）と期末テスト（70%）	
教科書 有賀 貞『ヒストリカル・ガイド アメリカ』山川出版社	

アメリカ文化	春 週2回 4単位
担当者：増田 直子	
講義の目標及び概要 (1)内容 2008年の大統領選挙で「アフリカ系」アメリカ人大統領が誕生したが、多様な人種・民族からなるアメリカ合衆国はその多様性ゆえに活力を持つと同時に問題を抱えている。人種的・文化的多様性からアメリカはどのような問題に直面し、それらに対してどのように対処し、一つの国家にまとめようとしているのか。現代アメリカ社会を理解するために第二次世界大戦後から21世紀初頭に至るまでのアメリカ社会の流れを概観し、人種・民族をめぐる政治的・社会的・文化的問題を学ぶ。 (2)カリキュラム上の位置づけ 現代アメリカ社会と文化を理解するための基礎的な知識を学ぶ。 (3)学びの意義と目標 アメリカ現代史の流れを知ることで、現代アメリカ社会の置かれた状況を理解する。	
評価方法 レポート2回（20%×2） 期末試験 50% 平常点その他10%	
教科書 プリントを配布する	

アメリカ文化演習A	春集中 4単位
担当者：D. バーガー	
講義の目標及び概要 1. 内容 カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化・歴史を学ぶよう編成されている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。	
評価方法 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50% （研修終了後秋学期の単位として認定）	
教科書 授業の中で指示する	

アメリカ文化演習B	秋集中	4単位
担当者：D. バーガー		
講義の目標及び概要		
<p>1. 内容 カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化・歴史を学ぶよう編成されている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。</p>		
評価方法		
<p>1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25%</p> <p>2. レポートとアンケートの提出 25%</p> <p>3. 現地研修校での成績 50%</p> <p>(研修終了後春学期の単位として認定)</p>		
教科書		
授業の中で指示する		

アメリカ文化概論	秋	週2回	4単位
担当者：柴田 史子			
講義の目標及び概要			
<p>◆内容 アメリカの政治、経済、宗教、文化、社会問題などの多岐にわたる分野をカバーする。映像や写真等でアメリカ文化に触れると同時に、文化地図の作成などの作業も行なう。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ アメリカに関する学びを統合する科目として設置された科目であるため、2年次～3年次にかけて受講することが望ましい。</p> <p>◆学びの意義と目標 アメリカ社会、アメリカ文化を空間軸で捉えることを目指しており、大学院レベルのアメリカ研究にとっての入門としての意味を持つ科目である。</p>			
評価方法			
ブックレポート (30%) と期末テスト (70%) で評価する。			
教科書			
プリントを配布する			

医学概論	秋	週1回	2単位
担当者：齋 今			
講義の目標及び概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ・リハビリテーションの概要について理解する。 ・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 			
評価方法			
<p>1. 教員による講義のみではなく、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションを取組んだワークショップも実施する。</p> <p>2. 通常講義出席、WS出席&レポート60%</p> <p>3. 期末レポート40%</p>			
教科書			
福祉士養成講座編集委員会『新版 社会福祉士養成講座〈13〉医学一般 第4版』中央法規出版			

イギリス文化	秋	週2回	4単位
担当者：氏家 理恵			
講義の目標及び概要			
<p>(内容) 保守的な階級社会からなぜビートルズが出現したのか、礼儀正しいジェントルマンの国のはずなのになぜサッカーのフリーガンとして怖れられる人々がいるのか—さまざまなイギリスの謎をその歴史や地理や文化を通して考えていく。複雑な歴史と、古くからの伝統的な文化を継承しつつ新しい時代に合った革新的な文化を誕生させるという相反するベクトルが、「イギリス文化」を興味深いものにしていくことを事例を挙げて確認していく。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) この科目は2年生以上対象の欧米文化学科専門科目である。「欧米文化入門」や「ヨーロッパ文化概論」を受講し、さらにイギリス文化について深く学ぶための科目となる。</p> <p>(学びの目標) イギリスに興味を持ち、好きになってもらうこと、これが本講義の目標である。社会や政治、歴史や地理、生活や風俗など、さまざまな角度から現代イギリス文化について知識を深めると同時に、そもそも「イギリス」「イギリス文化」というものが、ひとくくりにすることができない多様性と広がりを持っていることも感じてほしい。</p>			
評価方法			
<p>1. 平常点 (ミニッツノート) 30%</p> <p>2. 確認課題・小テスト 30%</p> <p>3. 中間レポート 20%</p> <p>4. 期末レポート 20%</p>			
教科書			
小池滋監修『世界の歴史と文化 イギリス』新潮社			

異常心理学	秋	週2回	4単位
担当者：古澤 聖子			
講義の目標及び概要			
<p>〈内容〉 一定程度の「自己理解」ができることにより、初めて「他者理解」に踏み出せる。ゆえに、あらためて「自己理解」から開始する。加えて、臨床という営為の提示とともに現代社会における問題の論考に付き学びを深める。他方、限られた時間ながら、実践やケース検討をとおして、本講テーマを見極める姿勢を培えるよう配慮する。学問に留まらず、日常生活の上で「役に立つこと」「実りとなること」が得られるよう工夫を凝らす。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 対象としての領域は、「臨床心理学」に軸足を置くが、「精神医学」および「臨床心理学と精神医学の学際領域」にもおよぶ。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 本学科目は、「異常心理学」との科目名であるが、正常と異常のパラダイムに対しシンプルに見たキリスト教文化とイスラーム文化との接触によって生じた相互関係について、中世の地中海地域、旧ソ連、バルカン半島の三地域に焦点をあてて個別に論じる。次に、現代の西欧におけるイスラーム諸問題を概観する。そして、最後に、近現代ヨーロッパにおける対イスラーム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる。なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定であるので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義である。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化に与えたイスラーム文化の重要性と、キリスト教文化とは異なるヨーロッパの地域文化の存在について理解を深め、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持つ。</p>			
評価方法			
<p>出席を重視する。 「出席」30%、「reaction paper」10%、「book report」(必須)30%、「学年末report」(必須)30%により評価する。</p>			
教科書			
<p>授業の中で指示する 福島 章『犯罪心理学入門』中公新書</p>			

イスラーム文化A	春	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 まず、イスラーム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにする。また、イスラーム教徒の生活の規範となっている「イスラーム法」についても具体的な事例を紹介する。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラーム文化の諸相を取り上げ、イスラーム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じたい。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観する機会を設けたい。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラーム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかなように、東方キリスト教諸派はイスラームと密接な関係を持っているからである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 概説であり、入門的な位置づけである。イスラーム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 世界史上におけるイスラーム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること。イスラーム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。</p>			
評価方法			
<p>出席点10%、平常点20%、試験(小テストを含む)70%によって算出する。</p>			
教科書			
<p>プリントを配布する</p>			

イスラーム文化B	秋	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 「ヨーロッパにおけるイスラーム文化」を主題として、異文化接触に関する諸問題について考察する。まず、イスラーム教についての基礎知識を確認した上で、歴史的に見たキリスト教文化とイスラーム文化との接触によって生じた相互関係について、中世の地中海地域、旧ソ連、バルカン半島の三地域に焦点をあてて個別に論じる。次に、現代の西欧におけるイスラーム諸問題を概観する。そして、最後に、近現代ヨーロッパにおける対イスラーム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる。なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定であるので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義である。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化に与えたイスラーム文化の重要性と、キリスト教文化とは異なるヨーロッパの地域文化の存在について理解を深め、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持つ。</p>			
評価方法			
<p>出席点10%、平常点20%、試験(小テストを含む)70%によって算出する。</p>			
教科書			
<p>プリントを配布する</p>			

逸脱行為論	秋	週2回	4単位
担当者：鮎田 実			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容 本講義は、社会学の一分野をなす逸脱行為もしくは逸脱行動について、とりわけ犯罪を取り上げ、犯罪はどうして起こるのかという原因を探ることとする。具体的には、アメリカにおける犯罪学を中心に、社会解体理論から修復的司法や破れ窓理論まで扱う予定である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は、社会学の一分野であるが、それに留まらない。犯罪を扱うことでは法学と、また犯罪をどのように対処すべきかということでは政治や経済とも関連してくる。したがって、社会学の応用編である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本講義の目的は、新聞・テレビ・インターネット等を通じて報道される犯罪について、学問的視野から分析・考察を可能にすることである。つまり、犯罪は、人が単に感情的に行うものではなく、その背景には様々な社会的問題があることを理解できるようになる。</p>			
評価方法			
<p>原則として期末試験で評価する。なお、2千字以上のレポート(1通のみ)を提出した場合、その内容によりA(20点)またはB(10点)に評価した上で、上記期末試験の素点に加点することとする。詳しくは講義開講時に説明する。</p>			
教科書			
<p>藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版</p>			

異文化間教育		秋	週1回	2単位
担当者：佐藤 千瀬				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容</p> <p>現在、日本の保育所・幼稚園・小学校において、外国人の子どもたちや国際結婚の子どもたち、海外で生まれ育った日本人の子どもたち等が増加している。このような現状を踏まえ、本講義では、異文化間教育・異文化適応・異文化間コミュニケーション等の理論と実践について概説する。さらに、外国人の子どもたち・家族とコミュニケーションをとる上で必要となる、世界の保育・教育に関する情報を収集し、発表する。</p> <p>必要に応じて、英語や多言語による授業、映像を用いた授業、多文化共生保育を実践する保育所見学を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>4年次に「海外実習 (SAINTS)」の履修を希望する者は、本講義を履修することが望ましい。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の子どもたちと家族の現状を知り、保育・教育に関する自身の枠組みを広げる。 ・適切な情報を収集し、クラスメイトと協力して創意工夫をした発表を行う。 				
評価方法				
平常点 40% 発表 30% レポート 30%				
教科書				
プリントを配布する				

異文化間コミュニケーション (経営)		春	週2回	4単位
担当者：T. アサモア				
講義の目標及び概要				
<p>国の国際化は、社会、組織、企業、人の中でより多くの相互依存につながった。</p> <p>国際化を実行するに当たって、文化的環境の理解が不可欠である。文化的環境とは、政治的環境、経済的環境、国際金融の潮流、あるいは企業の政策や戦略の理解などのことである。このことを理解することが、この授業の重要な目的のひとつである。</p> <p>従来の異文化間コミュニケーション学習では、文化的変数とコミュニケーション機能の重要性を通り一遍に説くものであった。この授業は、文化やコミュニケーション機能の専門領域に深く踏み込むものではなく、包括的に異文化間コミュニケーションとビジネスの関係に焦点を当てている。</p> <p>この授業は、国際的な企業や組織に興味がある学生だけでなく、これから社会にでる多くの学生に対して有意義なものである。</p> <p>なぜなら、ますます相互依存が強まる世界では、国内ビジネスマンと国際ビジネスマンの区別がなくなっているからである。</p>				
評価方法				
総まとめのテストを実施する。成績は、課題 (20%)、試験 (40%) の結果及び出席 (40%) に基づいて総合的に評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

異文化理解		秋	週2回	4単位
担当者：稲田 敦子				
講義の目標及び概要				
<p>【1. 内容】</p> <p>私たちにってはあたりまえであり、とくに何の疑問もいかなかったことがらが、他の文化圏の人びとにおいては、非常な驚きであるということがある。</p> <p>このクラスでは、比較文化の手法を用いながら、文化の枠組みと人間の行動・深層心理との関係性を具体的事例をとりあげながら比較検討していくこととする。</p> <p>【2. カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>学科の基礎科目であり、選択科目として1年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、1年次からの必修科目である。</p> <p>【3. 学びの意義と目標】</p> <p>国際化がますます進んでいる現在、異文化と触れる機会が多くなってきている。異なる文化との相互理解は、お互いから深く学びあい、共存しようとする人間の生き方にとって大切なことである。本講義はこうした認識が得られることを目標とする。</p>				
評価方法				
(1) 新聞記事による事例研究 (25%) (2) 基礎知識チェック (25%) (3) テーマ別レポート (25%) (4) 授業への参加度 (25%) ずつとし、総合計100点として算出する。				
教科書				
プリントを配布する				

医療英語 A		春	週1回	2単位
担当者：森 容子				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容</p> <p>今日のグローバル社会にあっては、海外で病気になったり、病院で外人患者の手助けが必要になったり、日常生活の中で英語が必要になる場合が増えつつある。本授業では、実生活で役に立つ医療英語に焦点をあて、楽しく授業を進めていくつもりである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>入門的な位置づけであり、基礎レベルの医療英語を学ぶ。病院や医療に関心のある人、海外旅行をよくする人、医療機関でアルバイトや就職をしようと考えている人に向いている。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>病名、症状、診療科名、体の名称等、医療に関する英語の語彙力をつけると同時に、病院などで必要とされる英会話を習得。学習した英会話は、医療の現場だけではなく、海外で病気になったとき、街角で外人から道を聞かれたときなど日常生活の中でも大いに役立つ。</p>				
評価方法				
出席を含める授業参加度 (25%)、ペアワーク (25%)、宿題 (25%)、小テスト (25%) で総合評価する。				
教科書				
森 容子『Basic English for Medical Office Assistants』南雲堂				

医療英語B	秋	週1回	2単位
担当者：森 容子			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容</p> <p>授業の進め方は基本的に医療英語Aに準ずるが、医療英語Bでは医療英語Aで学習した知識や情報をさらに拡大し、応用面や会話面に重点をおきたい。病院で実際に使われている会話を映像を通して確認したり、ロールプレイなどを通して確実なものとしていく</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「医療英語A」を基礎に、「医療英語B」では、さらに英語力、知識の補強をめざす。「医療英語A」の授業を受けた人に引き続き本授業を受講してもらいたいが、日常生活の中で役に立つ医療英語を身につけたい人や医療英語に関心のある人なら誰でも歓迎する。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>医療に関する英語の語彙力をつけると共に、病院などで必要とされる英会話を学ぶ。</p>			
評価方法			
出席を含める授業参加度(25%)、ペアーワーク(25%)、宿題(25%)、小テスト(25%)で総合評価する。			
教科書			
プリントを配布する			

イングリッシュ・バイブルA	春	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン			
講義の目標及び概要			
<p>1. Content - This course is a survey of the first major section of the Bible, the Old Testament, in English. An introduction to the Bible in general and the Old Testament in particular will be made, with special attention to their historical significance. Key themes within the Old Testament will then be covered, with emphasis on practical application to the students' personal lives.</p> <p>2. Role in the Curriculum - The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.</p> <p>3. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the Old Testament and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.</p>			
評価方法			
Grades will be based upon attendance and participation (20%), reading assignments (30%), reports (30%), and a final examination (20%).			
教科書			
『NIV Thinline Bible』Zondervan Publishing Co. [ISBN 978-0-310-93564-3] Richards, Larry 『The Bible: The Smart Guide to the Bible』Thomas Nelson, Inc. [ISBN 978-1-418-53638-1]			

イングリッシュ・バイブルB	秋	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン			
講義の目標及び概要			
<p>1. Content - This course is a survey of the second major section of the Bible, the New Testament, in English. As a continuation of English Bible-A, the course further develops the theme of the centrality of Jesus Christ in human redemptive history and emphasizes the importance of His teachings for practical living.</p> <p>2. Role in the Curriculum - The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.</p> <p>3. Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the New Testament, particularly the Gospel message, and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.</p>			
評価方法			
Grades will be based upon attendance and participation (20%), reading assignments (30%), reports (30%), and a final examination (20%).			
教科書			
『NIV Thinline Bible』Zondervan Publishing Co. [ISBN 978-0-310-93564-3] Richards, Larry 『The Bible: The Smart Guide to the Bible』Thomas Nelson, Inc. [ISBN 978-1-418-53638-1]			

インターネット時代の情報資源活用	秋	週1回	2単位
担当者：若松 昭子/河島 茂生			
講義の目標及び概要			
<p>1. 内容</p> <p>本講義では、各分野で活躍する第一線の研究者を招き、情報メディアを多方面から考察する。まず、本講義の礎として、現代社会において必要な情報観を考える。次に、情報メディアの歴史を概観し、現代社会における情報メディアを歴史過程のなかに位置づける。その後、現代の情報メディアの課題を様々な観点から取り上げる。情報検索や電子図書館、インターネット上のコミュニケーション特性、情報倫理など、広範なトピックを扱う。【本講義は、電気通信普及財団による助成を得て開設される特別講義である】</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>図書館情報学課程の資格科目・コミュニティ政策学科専門科目</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>情報の役割が増し、データ量が飛躍的に増大している現在、情報を見極め、選択し、的確に扱う能力を身につけることは、現代社会でよりよく生きることに繋がる。本講義では、情報社会の理解を深め、高度な情報活用能力を身につけることを目標とする。</p>			
評価方法			
それぞれの講師から出された評価を合わせ総合的に評価する。各回の評価方法や評価配分はそれぞれの講師に一任するが、いずれの授業でも、出席状況と授業態度およびレポートが評価の基本となる。			
教科書			
プリントを配布する			

インターンシップ(自主活動)	秋集中	2単位
担当者：藤井 重隆/酒井 俊行		
講義の目標及び概要 本講義は民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでの実習科目である。この実習にできる者はインターンシップI(事前学習)を受講し、単位認定を受けた学生のみが履修できる。 実習期間は原則として夏休み期間中の10日間で、実習先は以下の4つから選ぶことができる。学生が希望する実習先を全員に紹介ことは困難なので自分が見つけた実習先で実習することも可能である。この場合、事後のことを考え、必ず大学が関わり先方と覚書等の交換を行う。 ○埼玉県インターンシップ ○上尾市・桶川市・伊奈町インターンシップ ○埼玉県経営者協会ハイパーキャンパス ○キャリアサポートセンター紹介 ○自分で見つけた実習先		
評価方法 実習期間中には毎日実習ノートを書いて、指導者に提出しコメントを記載の上押印をもらう。実習終了後に提出したレポート(50%)、実習ノート(30%)及び口頭報告(20%)で評価する。		
教科書 授業の中で指示する		

インターンシップ I (事前学習)	春	週1回	2単位
担当者：藤井 重隆			
講義の目標及び概要 1. 内容 インターンシップとは、在学中に就業体験を行うこと。企業などの組織に自分を置き、その組織がかかげる理念や目標に向かって日々どのような様な活動をしているかを実感することを目的としている。この機会を通じて、自ら社会が求める人材像を理解し、より良いキャリア選択を目指す姿勢を知ることが望ましい。職場感覚を得たり、即戦力化に役立つよう「模擬企画プロジェクト」のグループワークや、ビジネスマナーを学ぶ講座も設けている。 2. カリキュラム上の位置づけ 夏休みなどに、民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでインターンシップとして働くことを希望する学生を対象とする。すなわち、インターンシップII(実習)受講のために必要な講義である。 3. 学びの意義と目標 経済のグローバル化やICTの発展による産業構造の変革に伴い、雇用の情勢や働き方も変化している。「就業力」を理解し、これを育成していくことの大切さを理解すること。			
評価方法 配点は出席点50%、レポート点50%とする。 遅刻3回で1回欠席扱いとする。			
教科書 授業の中で指示する			

インターンシップ I (事前学習)	春	週1回	2単位
担当者：酒井 俊行			
講義の目標及び概要 足りない部分を知ることが社会生活へよりよく適合するための第一歩です。就職力をアップするといっても、自分に不足しているものを明確に認識しなければ、獲得目標も定まりません。優秀なビジネスパーソンは自らの足りないところをしっかりと把握して、それを埋めようと不断的努力をしているからこそ、その地位を維持できるのです。したがってこの授業では、自らに不足するものをさまざまな角度からチェックすることを主テーマとします。チェックの結果不足するところが沢山あっても落ち込まないで下さい。それが多ければ多いほど、その人は今後の成長性が高いわけです。授業は以下の計画に沿って進めます。さらにこうした各回のテーマに加えて毎回ビジネスマナーをクイズ方式で学ぶこととします。マナーは日頃の積み重ねが大事です。1回や2回散発的に学んでも身につくものではありません。コツコツと地道に繰り返すことによってしか、ビジネスの基本であるマナーを自分のものにするにはできません。授業の進め方は私から一方的に話をするのは極力避けたいと考えています。ビジネスの基本は参加することです。出しゃばりすぎはいけません、メンバーの積極的な参加がなければよい仕事はできません。そうしたこともこの授業を通じて学んでもらいたいと考えています。			
評価方法 出席は皆勤が原則です。出席点50%、レポート・平常点50%の割合で評価します。			
教科書 塚谷正彦『大学生の生き方・考え方』(実教出版)『ナンクロ 2011年6月号』(世界文化社)			

インターンシップ II (実習)	秋集中	2単位
担当者：藤井 重隆/酒井 俊行		
講義の目標及び概要 本講義は民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでの実習科目である。この実習にできる者はインターンシップI(事前学習)を受講し、単位認定を受けた学生のみが履修できる。 実習期間は原則として夏休み期間中の10日間で、実習先は以下の4つから選ぶことができる。学生が希望する実習先を全員に紹介ことは困難なので自分が見つけた実習先で実習することも可能である。この場合、事後のことを考え、必ず大学が関わり先方と覚書等の交換を行う。 ○埼玉県インターンシップ ○上尾市・桶川市・伊奈町インターンシップ ○埼玉県経営者協会ハイパーキャンパス ○キャリアサポートセンター紹介 ○自分で見つけた実習先		
評価方法 実習期間中には毎日実習ノートを書いて、指導者に提出しコメントを記載の上押印をもらう。実習終了後に提出したレポート(50%)、実習ノート(30%)及び口頭報告(20%)で評価する。		
教科書 授業の中で指示する		

映画を通して学ぶ文化と英語		春	週2回	2単位
担当者：中村 香代子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 この授業では数本の映画を通して、アメリカ文化や社会の抱える問題について学びます。また映画のテーマに関するインターネットでの調べ学習やディスカッションを通して理解を深め、プレゼンテーションやレポートで自分の考えをまとめ、発信する練習をします。さらに映画シーンのリスニング練習やロール・プレイ、会話表現学習も行います。				
2. カリキュラム上の位置づけ ECA(Cinema)に続き、さらに多様な映画を使用して、英語力育成と異文化理解を図る専門科目です。				
3. 学びの意義と目標 映画を通して異文化に対する理解を深め、楽しみながら英語表現能力を向上させることを目標としています。				
評価方法				
出席(10%)、授業参加(10%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)、ロールプレイテスト(20%)、表現テスト(20%)を総合的に評価します。				
教科書				
プリントを配布する				

英語音声学		春	週2回	4単位
担当者：加曾利 実				
講義の目標及び概要				
◆内容◆ LL教室を使用する。テキストで英語音声学の基礎知識(発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等)を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行う。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語等の、他の種類の英語についても触れる。				
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、出来るだけ1-2年次に履修することが望ましい。また、予習・復習を励行すること。				
◆学びの意義と目標◆ 英語音声学の基本理論を学び、実際に「ネイティブ・スピーカーに通じる発音」を練習して、その習得を目指す。つまり、ネイティブ・スピーカーとのコミュニケーションにおいて、相手を正しく理解し、また自らの意思を相手に正しく伝えられるようになる。				
評価方法				
1. 定期試験(中間と期末)の成績(70%) 2. レポートの成績(15%) 3. 発音チェックテストの成績(15%) 欠席の扱いについては、学生要覧を参照のこと。				
教科書				
御園和夫、平坂文男『コミュニケーション主体の英語音声学』和広出版				

英語科教育法Ⅰ		春	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 本講義の内容及び目標は以下の5点である。(1)英語教育の意義と目的を考え確認する。(2)英語教育に対する目的意識を持つことで、これまでの「学生」という立場から「教師」という立場に立って考え行動することを目指す。(3)第二言語習得理論、外国語教授法、指導技術、学習指導要領への理解を深める。(4)指導に必要な英語力を身につける。(5)指導案を作成し、模擬授業を行うことを試みる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程における2年生の必修科目である。				
3. 学びの意義と目標 英語教育の目的・意義について一面的な見方ではなく、より広く深く考えることで、英語教育に対する誇りと熱意を持てるようになってもらいたい。また英語教育の理論を学び、指導に必要な英語力を身につけ、模擬授業を体験することで、中学・高等学校の教師になるとはどういうことなのかを認識し、教師になるための一歩を踏み出して欲しい。				
評価方法				
出席点(20%)、平常点(授業への貢献度など)(20%)、レポート数回(30%)、模擬授業(30%)＊評価の内容は変更する場合があります。その場合は授業で説明するので確認すること。				
教科書				
望月昭彦 編著『改訂版 新学習指導要領にもとづく 英語科教育法』大修館書店 『New Crown English Series 1』三省堂 『New Crown English Series 2』三省堂 『New Crown English Series 3』三省堂 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

英語科教育法Ⅱ		秋	週1回	2単位
担当者：小川 隆夫				
講義の目標及び概要				
1. 内容：「英語科教育法Ⅰ」の内容をより実践的にしたのが本講義である。 (1)英語教育の意義と目的を再確認するとともに、教師としての自覚と責任、信念を持って行動できることを目指す。 (2)第二言語習得理論、教授法及び学習指導要領を読み解き理解を深める。 (3)自ら指導案を作成し模擬授業を行うことを目標とする。また、「コミュニケーション能力の育成」のため、読む、書く、話す、聞く技能をいかに関連づけながら指導していくかを学ぶ。				
2. カリキュラム上の位置づけ： 教職課程における2年生の必修科目である。				
3. 学びの意義と目標： 英語教育の意義と目標を考え、教師として自信と自覚を持って教壇に立つための準備を行う。理論と指導法、模擬授業を通して「教えるためには学ぶ」必要があることを実感できるはずである。自分の学びを通して、教えることの楽しさ、難しさ、英語教師という仕事の価値を見出して教師を目指して欲しい。				
評価方法				
出席点(20%)、平常点(授業への貢献度など)(20%)、レポート数回(25%)、模擬授業(35%)				
教科書				
『New Crown English Series 1』(三省堂)『New Crown English Series 2』(三省堂)『New Crown English Series 3』(三省堂) 望月昭彦他『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)				

英語科教育法Ⅲ		春	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容：(1)「英語科教育法Ⅰ、Ⅱ」に引き続き英語教育の基礎を学ぶ。(2)これまで学んだ英語教育の理論と技術を基に模擬授業を数回行う。(3)できるだけ英語で授業を行うことを目指し、Oral Introduction, Classroom English, Pronunciationの練習を行う。(4)多くの授業観察を行い、自分自身の指導に結びつける。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における3年生の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：英語科教育法Ⅲでは、授業力（指導力）をつけることを最大の目標とする。教科書研究を十分に行い、指導案を書き、目標に応じた授業及び評価ができるようになる。また、分かりやすく楽しい授業を英語で行うことを目指してほしい。</p>				
評価方法				
平常点20%、レポート15%、模擬授業45%、期末テスト20% *評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。				
教科書				
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）				

英語科教育法Ⅳ		秋	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容：(1)「英語科教育法Ⅰ～Ⅲ」で学んだ a. 英語教育の意義と目的、b. 第二言語習得理論、c. 外国語教授法、d. 学習指導要領（外国語）、e. 指導技術、f. 指導案の作成、g. 教室英語、h. 発音、などを復習し、知識と技術をしっかりと身につける。(2)オーラル・イントロダクションを用い、「コミュニケーション能力の育成」を目指した指導[4技能（読む/書く/話す/聞く）を有機的に関連付けながら指導すること]が実践できるようになる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における3年生の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：教育実習を目前に控えた、英語科教育法の総括となる大事な授業である。改めて教師なるという自覚を持ち、各自が責任を持って教育実習の準備を進めて行くこと。特に指導技術を磨き、教科書研究を十分に行った上で、ひとりで1課の授業計画を立て、指導案を書き、目標に応じた授業並びに評価ができるようになることを目指す。</p>				
評価方法				
平常点（授業への貢献度など）（20%）、レポート数回（15%）、小テスト（20%）、模擬授業（45%）*評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。				
教科書				
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

英語学概論		春	週2回	4単位
担当者：加曾利 実				
講義の目標及び概要				
<p>◆内容◆ 英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・意味論・英語史等について概観する。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義する。本講義の一大特徴は、イギリスの著名な学者と朗読者による、古英語及び中英語の貴重な音声教材を用いて、その音声を聞き、また実際に発音練習することである。古(いにしえ)の英語音声に関心のある学生に履修して頂きたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ ある程度、英語の基礎が出来上がった、2-4年次の学生に履修して頂きたい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 現代というグローバル化の時代にあつて、英語に関する様々な知識が、必須となって来ている。英語を学習し、研究する者ならば、知っておかねばならない知識を網羅する。</p>				
評価方法				
<p>1. 予習・復習の実行度（10%）</p> <p>2. 授業での積極度（10%）</p> <p>3. 中間・期末の定期試験（80%）</p> <p>出席については、学生要覧を参照のこと。</p>				
教科書				
石黒 昭博『現代の英語学』金星堂				

英語圏児童文学講読		春	週1回	2単位
担当者：松本 祐子				
講義の目標及び概要				
<p>(1)〈内容〉イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、英語圏の優れた児童文学作品を取り上げ、訳読する。今回は、イギリスの作家Somerset MaughamのThe Princess September、アメリカのSF作家Isaac AsimovのThe Fun They Hadを読む。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉1年次の必修英語で身につけた英語力を維持し、さらにブラッシュアップしたい学生のための授業。文法、構文などを中心にしたリーディング能力を伸ばす内容である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉日本の英語教育は、現在、コミュニケーション力が重視されているが、文法の知識なしに正しく英語を読み書きすることはできない。また、英文を日本語に置き換えることで、英語と日本語の構造の根本的な違いがわかり、文化や思考方法の違いも見えてくる。作品に描かれる文化的背景についても学びながら、英語で物語を読む達成感を味わってほしい。</p>				
評価方法				
授業時の平常点40%、期末試験50%、出席10%によって算出する。				
教科書				
プリントを配布する				

英語講読 A	春 週1回 2単位
担当者：高橋 義文	
講義の目標及び概要 英語の文献の読解力を養うことを目的とする。英文を正確に読み、その内容を的確に把握することに努め、それぞれの分野の研究に役立つ英語力をつける。 教材として、主に以下の論文集に収録されている、ラインホルド・ニーバーの比較的短いエッセイを取り上げ、それを訳しながら、文章構造、文法、特徴的な表現や語彙を確認し、その内容について議論する。受講生の状況によって、補助的に、文法の確認、速読の練習などのために、他の平易な英語文献を合わせ用いることもある。	
Love and Justice: Selections from the Shorter Writings of Reinhold Niebuhr, ed. by D. B. Robertson, 1957. The Essential Reinhold Niebuhr: Selected Essays and Adresses, ed. by Robert McAfee Brown, 1986.	
評価方法 出席率、授業での担当部分の翻訳、提出された訳文により、総合的に評価する。	
教科書 プリントを配布する	

英語講読 B	秋 週1回 2単位
担当者：有賀 貞	
講義の目標及び概要 (講義目標と概要) アメリカ史における著名な文書(公文書・著作・演説など)の一部を読み、それら文書の意味を検討することを目的とするが、それと同時に、英語の文章を正確に読み取り、要旨を適切にまとめる練習を通じて、英語資料活用の習熟度を上げることを目指す。受講者それぞれの学期当初の英語活用水準に合わせた指導に心がける。	
評価方法 出席率、平常点、最終テストなどを総合的に評価する。	
教科書 授業の中で指示する 斎藤真・久保文明【編】『アメリカ政治外交史教材-英文資料選』東京大学出版会	

英語コミュニケーション	秋 週1回 2単位
担当者：M. サベット	
講義の目標及び概要 英語を理解する外国人の子供を日本の幼稚園・保育園・小学校に迎える際に必要なコミュニケーション・スキルを養うことを目的とする。歓迎の挨拶、園内・校内設備の案内など実践に必要なコミュニケーション・アクティビティを行う。英語を理解する保護者のために、家庭配布プリントから必要な情報を英語で伝えるためのコミュニケーション・スキルを養う。日本の幼稚園・保育所・小学校の特徴と聖学院アトランタ国際学校(SAINTS)の異なる文化的背景を英語で学ぶ。	
評価方法 1. 出席状況 30% 2. 授業態度・参加 30% 3. テスト 40%	
教科書 プリントを配布する	

英語スピーチ発音法	秋 週2回 2単位
担当者：加曾利 実	
講義の目標及び概要 ◆内容◆ LL教室を使用します。英語の表現力と聴解力を身につけるためには、まず基本的な発声法と英語の発音ができていなければなりません。英・米などのネイティブ・スピーカーと自然なコミュニケーションを行えるようになるためには、実用的な英会話教材を用いて、自然な英文を覚えて、スピーキングとリスニングの力をアップさせて行くことが効果的です。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 本授業は、できれば春学期の「英語音声学」を履修した後に、履修した方が、より効果的に学習できます。「英語音声学」との違いは、呼吸法・解剖学的考察・イントネーションなどといった「応用理論の実践」にあります。 ◆学びの意義と目標◆ 生きた英語表現を身につけるための理論と実践を行います。発音練習を行いながら、機能語を中心とする「演説に基づく表現力とリスニングのポイント」を学習します。	
評価方法 1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. 発音チェックテストの成績 (30%) 3. 定期試験(中間と期末)の成績 (60%) 出席については、学生要覧を参照のこと。	
教科書 荒井 良雄 編、尾崎 寔 注釈『英語名演説集』英光社	

衛生学入門	春 週2回 4単位
担当者：大江 敏江	
講義の目標及び概要	
<p>1 内容</p> <p>衛生学は疾病を予防し、健康の保持、増進を目標としている。平均寿命の大幅な伸長は医療の進歩よりも衛生環境の整備、栄養の改善、貧困からの脱却に負うところが大きい。</p> <p>本講では、上下水道、感染症、室内環境、食中毒、国民栄養、生活習慣病など身の回りの問題を取り上げ、健康と環境の関係について学ぶ。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ</p> <p>衛生学入門は公衆衛生学、環境衛生学とともに社会福祉士国家試験科目「医学一般」の一部でもある。将来保健医療関係者との連携をはかるうえで、基礎となるものである。</p> <p>3 学びの意義と目標</p> <p>衛生学が「保健」の領域全般に関与し、医療・福祉との関連が深いことを理解する。そして2年次以降の「公衆衛生学」および「環境衛生学」への発展の基礎とする。</p> <p>(教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」共通である)。</p>	
評価方法	
<p>(1)出席・受講態度(含座席位置)20%、</p> <p>(2)授業中の小テスト20%、</p> <p>(3)中間テスト30%、</p> <p>(4)期末テスト30%、によって評価する。</p> <p>受講態度が悪いと単位習得はできない。</p>	
教科書	
鈴木庄亮、久道 茂編集『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂	

映像と文化A	春 週1回 2単位
担当者：山中 剛史	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆</p> <p>写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。しかし、例えば明治の人々ほどのように映像を理解し受容していたのか。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が、近代化の中で如何様な位置を占め、文化戦略として表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解する。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆</p> <p>応用系として3～4年生向。文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向けています。</p> <p>◆学びの意義と目標◆</p> <p>本講義では、写真や映画など19世紀より輸入・発展した各メディアが、種々の文化的コンテクストの中で如何に扱われてきたかを再検証していく。それは、ヴィジュアル文化全盛の今日、映像文化をその原初から改めて逆照射することによって、現代日本文化における映像作品の諸問題を改めて考えさせることになるだろう。</p>	
評価方法	
全講義回数2/3以上の出席および期末レポートの提出を単位取得の最低限の条件とする。その上で、期末レポートに加え、不定期に実施する小レポートから評価する(提出状況+内容)。	
教科書	
プリントを配布する	

映像と文化B	秋 週1回 2単位
担当者：山中 剛史	
講義の目標及び概要	
<p>◆内容◆</p> <p>写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が如何様に文化戦略として表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解していくために、その変遷する映像芸術の歴史的様相を芸術思潮のうちに主題化し、葛藤を繰り返しながら映像的結実へといたった過程を、個々の作品を実現することで跡付け検証する。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆</p> <p>応用系として3～4年生向。文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向けています。</p> <p>◆学びの意義と目標◆</p> <p>本講義では、写真や映画などの各メディアが、第二次大戦後の文化的コンテクストの中で如何に扱われてきたかを具体的に再検証していく。ヴィジュアル文化全盛の今日、改めて映像作品の孕む諸問題と可能性について見つめ直し、思考する眼を養っていきたい。</p>	
評価方法	
全講義回数2/3以上の出席および期末レポートの提出を単位取得の最低限の条件とする。その上で、期末レポートに加え、不定期に実施する小レポートから評価する(提出状況+内容)。	
教科書	
プリントを配布する	

英米児童文学	春 週2回 4単位
担当者：松本 祐子	
講義の目標及び概要	
<p>(1)〈内容〉この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科の学生は1年次から、それ以外の学科の学生は2年次から履修できる科目。英米児童文学についての基本的知識を身につけるための授業で、初心者～中級者向け。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。</p>	
評価方法	
授業への出席・平常点20%、レポート40%、期末試験40%で評価する。	
教科書	
プリントを配布する	

英米文学	春 週2回 4単位
担当者：氏家 理恵	
講義の目標及び概要	
<p>(内容)</p> <p>イギリスで近代小説が誕生した18世紀初頭から3世紀経った現在、私たちはさまざまな作品を読むことができる。本講義では、なるべく多くの形式・種類の作品を取り上げ、小説の発達とその歴史的・文化的背景を探っていく。また、文学や作品そのものがイギリスやアメリカの風土・歴史・社会・生活と深く結びついていくことも確認したい。なお、講義の補助として写真や映像も使用する予定である。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>2年生以上対象の専門科目である。ある程度の文学の基礎知識を持っている学生、「英米文学概論」あるいは「欧米文学」を受講済みの学生の履修を推奨する。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>小説の誕生からその発展を歴史的にたどることによって、小説の多様性を知り、作品に対する多角的なアプローチを身につけられる構成になっている。「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米の小説の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。</p>	
評価方法	
<p>1. 平常点 (ミニッツノート・確認テスト) 40%</p> <p>2. 課題 10%</p> <p>3. 作品批評レポート (2作品) 30%</p> <p>4. 期末レポート 20%</p>	
教科書	
プリントを配布する	

英米文学概論	秋 週2回 4単位
担当者：富田 光明	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>英米文学概論とは、英米文学全体にわたって、大要を述べたものであり、非常に広範囲に及ぶものである。常に文学とは何であるのかを意識して学ぶことである。</p> <p>本講義は受講者諸君が今後英米文学作品に触れる折に、必要とされる知識及び英米人の価値観・人生観などを学び、文学をより身近かなものにするためのものである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>英米文学のジャンルは、詩・小説・ドラマ・エッセイといった多岐にわたるが、英米文学の真髄はやはり、文学の華である「英詩」の中に彼らの文学のエスプリが垣間見られる、といっても過言ではない。それゆえ英詩に触れる機会が多くなる可能性がある。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>この講義は概論ではあるが、文学史的性質を含むのであるので、時代的・文化的背景をも考慮しながら、常に文学とは何かというテーマを意識し、授業に参加してもらいたい。基本的にはテキストを使用するが、主要作品については必要ときにはプリントなどで補充をし、より深い理解を学生が得るように指導する。</p>	
評価方法	
授業参加意欲 (発表など) が40%、レポートが40%、出席が20%によって算出する。	
教科書	
須藤信雄・繁尾久『教養としての英米文学』南雲堂	

絵本文化論	春 週1回 2単位
担当者：森下 みさ子	
講義の目標及び概要	
<p>1. 内容</p> <p>絵本は、子どもが会える物語世界の入口にあり、その出会いは大人との共同作業によって用意される。と同時に、大人をもう一度、人間の原点である (子ども) 世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かをさぐると同時に、すぐれた絵本から子どもの世界の文法をさぐり、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>子どもの感じ方の文法・大人と子どもの関係の原基をさぐっていく、子どもの世界を知るための入門的な講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>子どもが「描かれた世界」をどう受けとめ、どのように心を養っていくのか、そこに「絵本」という媒体や大人はどうかかわるのか、保育・教育現場で用いることも考慮しつつ絵本が作り出す (場) の意味と可能性を学んでほしい。</p>	
評価方法	
リアクションペーパー30% 期末テスト70%	
教科書	
授業の中で指示する	

演奏形式とその音楽	春 秋 週2回 4単位
担当者：藤田 明	
講義の目標及び概要	
<p>1) 内容</p> <p>この講義では、楽器の特徴と時代背景、主な作曲家やその作品等について学び、音楽鑑賞を行う。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>クラシック音楽の入門的な位置づけであり、音楽鑑賞論の基礎となる。</p> <p>3) 学びの意義と目標</p> <p>この講義を受講することによって、学生諸君が音楽を鑑賞する時、より深く感動することが出来るようになるだろう。</p>	
評価方法	
試験40% ノート提出30% 出席30%	
教科書	
授業の中で指示する	

欧米児童文化	秋	週2回	4単位
担当者：上原 里佳			
講義の目標及び概要			
【比較児童文化という視点から】—文化から産業までの歩み— (1)内容 サブカルチャーとしての児童文化の特質をふまえた上で〈漫画・アニメーション・キャラクター〉に注目し、日本と欧米で個々の素材がどのように係わりあいながら発展してきたかを、比較・考察する。作品が制作された当時の社会状況や文化的背景を検証し、そこに反映された子ども観や女性観の変遷を読み解いていく。作品観賞や最新のデータ・状況などできるだけ多くの具体例に触れ、なぜその作品（商品）がヒットしたかについて分析すると共に、ビジネス的側面からも具体的に検討していきたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の〈生活文化〉領域としての専門科目。選択科目。 (3)学びの意義と目標 子ども時代から馴染んできた作品の再評価に加え、近年の作品で展開される世界観の可能性についても考えていきながら、柔軟な発想力と物事を多角的視野から展望する力を身につける。			
評価方法			
出席点（授業への出席、および授業態度） 35% 各授業後提出の小レポート（講義内容の理解度・興味）、講義への積極的な関わりなど 35% 期末レポートもしくは試験 30%			
教科書			
プリントを配布する			

欧米文化学特論	春	週1回	2単位
担当者：有賀 貞			
講義の目標及び概要			
アメリカ、ヨーロッパそして日本の文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで、大局的に理解するための研究入門とすることを旨とする。7人の担当者がそれぞれアメリカ、ヨーロッパ、日本の文化の研究のために基本的に重要なテーマを取り上げて講義する。本研究科に関わる教員が2回ずつの講義を通じて、それぞれの学風、つまり研究の視点や問題意識、研究方法を伝える機会とすることもこの科目の狙いである（第15週はコーディネーターが担当）。			
評価方法			
出席率とレポートにより総合的に評価する。			
教科書			
授業の中で指示する 大木英夫『ビューリタン—近代化の精神構造』聖学院大学出版会			

欧米文化基礎知識（留学生用）	春	週1回	1単位
担当者：丸山 具子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 この授業は、欧米文化学科必修の「欧米文化入門」の授業の予習・復習として学科オリジナル教科書『欧米文化の基礎知識』を使い、日本語の用語、基本的知識などを学ぶ。特に漢字、カタカナでの表記、未習の文型のせいでわからなくなならないように確認していく。 2. カリキュラム上の位置づけ この「欧米文化基礎知識（留学生用）」という科目は、欧米文化学科2年の留学生を対象とした科目であり、本学科必修の「欧米文化入門」の講義を日本人学生と共に受講するための準備の科目として設置されている。（なお、必修の「欧米文化入門」は1年生の「基礎ゼミA」「基礎ゼミB」で学んだことを受けて発展させる科目である。） 3. 学びの意義と目標 ・母語での欧米文化についての知識を日本語と結び付けて考えられるようにする。 ・「欧米文化入門」の講義を日本人の学生と共に受け、理解するための基礎知識を得る。 ・2年生以降履修する本学科の講義を理解するための基礎知識を得る。			
評価方法			
1. 学期末テスト・小テスト 30% 2. 出席率 30% 3. 授業参加度 15% 4. 課題提出 25%			
教科書			
聖学院大学欧米文化学科『欧米文化の基礎知識』			

欧米文学	春	秋	週2回	4単位
担当者：三宅 美千代				
講義の目標及び概要				
本講義は、英米文学の初心者を対象とした基礎的な授業です。英米文学の基本的な予備知識、作品を生んだ歴史や時代背景についての初歩的な知識を身につけます。さまざまな英語圏作家の作品を少しずつ読みながら、英米文学を概観していきます。 英語で書かれた文学を入門的、かつ網羅的に扱うための切り口として、各学期異なるテーマに沿って、主要な作家や作品を紹介していきます。今年度は、前期は「移動と文学」、後期は「政治と文学」というテーマを考えています。映像や音声資料も活用しながら、さまざまな作家の移動や異文化観、社会・政治問題に対する文学的アプローチについて考察します。				
評価方法				
レポート50%、ワークシート25%、出席25%				
教科書				
プリントを配布する				

欧米文学	春 秋 週2回 4単位
担当者：本田 貴久	
講義の目標及び概要	
1) 内容 日本の近代文学に、欧米文学もたらした成果は大きい。その中でもフランス文学の果たした役割は無視できない。一口にフランス文学と言っても、歴史的にも制度的にも多様な背景の中で様々な文学作品が作られてきている。本講義では、文学史を通して、フランス文学の内容（の多様性）を学んでいきたい。映画などの視聴覚教材を借りながら、歴史の大枠を捉えることを目指したい。授業の最初には前回の授業のおさらいを簡単に行うことにする。毎回、授業の内容はプリントにして配布する。	
2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門基礎科目で必修科目。同時に教養科目にも分類され、他の5学科の学生も選択必修科目として履修可能。	
3) 学びの目標 単にフランス文学の歴史を概観するというだけでなく、異国の文化や文学を学ぶとはどういうことなのかを考え、同時に、文学以外の関連分野への関心も広げること。	
評価方法 出席)、平常点(各授業の小アンケートに対して与えられる得点+授業態度)、学期末試験から総合的に評価する。各点数の配分は、出席点+平常60%、学期末試験40%である。	
教科書 プリントを配布する	

欧米文化入門	春 週1回 2単位
担当者：D. バーガー	
講義の目標及び概要	
1) 講義の目標および概要 本講義では、本格的に欧米文化学科専門科目を履修していくために必要とされる、欧米文化に関連する基礎知識の習得を目指します。また、将来社会で活躍するために、2年次において準備可能なことについて、各種説明やトライアルをおこないます。	
2) カリキュラム上の位置づけ 1年次に履修した「基礎ゼミ」の延長上にあり、欧米文化学科2年次必修科目であり、専門科目・専門ゼミへ進むための準備となる基礎科目です。	
3) 学びの意義と目標 目標は三つあります。第一に、教科書を用いた学習により、専門科目を受講するのに十分な、欧米文化全般に関する基礎知識を習得すること。第二に、各種資格のガイダンス・トライアルを通じて、自らのライフデザインを現時点において考えられるようになること。第三に、1年次の基礎ゼミで学んだ「学びの基礎力」を復習し、その力をさらに伸ばすこと。	
評価方法 計7回の小テスト40%、期末テスト20%、平常点(出席、授業内での課題など)40%によって評価します。	
教科書 授業の中で指示する	

オーストラリア文化演習	秋集中 4単位
担当者：D. バーガー	
講義の目標及び概要	
1. 内容 Deakin University (認定校) ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁するディーキン大学の附置機関Deakin University English Language Instituteの協力によって英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。	
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目	
3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験する英語特別トレーニング研修。	
評価方法 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50% (研修終了後春学期の単位として認定)	
教科書 授業の中で指示する	

教えるための英文法A	春 週1回 1単位
担当者：印田 佐知子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 将来教職に就きたいと考えている学生を対象に、中学～高校で学習した基礎的な文法項目を再確認し、英語のしくみに対する理解を深めてもらう。また、実際に教えることを想定して、新しい文法項目をどう導入・指導すべきかを考えていく。*注意「教えるための英文法A」でテキスト前半を、「教えるための英文法B」でテキスト後半を使用する。	
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科「言語」専門科目群の選択科目である。特に、教職課程や児童英語教育を専攻している学生を対象とするが、そうでない学生も選択可能である。	
3. 学びの意義と目標 将来英語を教えたいと考えている学生諸君が、英語の基礎的なしくみをよく理解し、自信を持って教壇に立てるようになることを目指す。	
評価方法 積極的な授業への参加(出席回数、宿題への取り組みを含む)(20%)、3回の小テスト(60%)、レポート(20%)から評価する。	
教科書 花岡 潤『Groundwork for Grammar 一大学生のための基礎英語・文法―』南雲堂	

教えるための英文法B		秋	週1回	1単位
担当者：印田 佐知子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 将来教職に就きたいと考えている学生を対象に、中学～高校で学習した基礎的な文法項目を再確認し、英語のしくみに対する理解を深めてもらう。また、実際に教えることを想定して、新しい文法項目をどう導入・指導すべきかを考えていく。*注意「教えるための英文法A」でテキスト前半を、「教えるための英文法B」でテキスト後半を使用する。				
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科「言語」専門科目群の選択科目である。特に、教職課程や児童英語教育を専攻している学生を対象とするが、そうでない学生も選択可能である。				
3. 学びの意義と目標 将来英語を教えたいと考えている学生諸君が、英語の基礎的なしくみをよく理解し、自信を持って教壇に立てるようになることを目指す。				
評価方法				
積極的な授業への参加（出席回数、宿題への取り組みを含む）(20%)、3回の小テスト（60%）、レポート（20%）から評価する。				
教科書				
花岡 潤『Groundwork for Grammar 一大学生のための基礎英語・文法一』南雲堂				

教えるための現代文A		春	週1回	2単位
担当者：前田 潤				
講義の目標及び概要				
◆教員採用試験の「現代文」読解問題を念頭に置きながら、現代日本語で記されたあらゆるジャンルの文章読解力の向上を目標として講義を行う。領域横断的な文章素材を扱うことを通じて、文学・芸術はもちろん、社会思想・メディア・情報・身体・紛争・共同体といった重要な現代的問題系に関する思考を深めるとともに、「国語」教育に携ろうとする者として必要な、総合的な日本語操作能力の獲得を目指す。中学校・高等学校教科書、各種副読本、大学入学試験問題など、幅広い素材を対象テキストとする。 ◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法Ⅰ」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。 ◆教員採用試験の要求する「現代文」文章読解能力の水準を把握するとともに、「国語」教員として最低限必要な文章表現力の獲得を目標とする。				
評価方法				
平常点（出席と毎時間の小テスト）50%＋最終試験50%				
教科書				
プリントを配布する				

教えるための現代文B		秋	週1回	2単位
担当者：前田 潤				
講義の目標及び概要				
◆受講者が、やがて教員として教壇に立つことを想定しながら、教材分析能力・問題作成能力・文章解説能力・授業構成能力など、教員として是非とも必要な能力の育成を目標として講義を行う。対象テキストの十分な理解を前提とした上で、それをいかに「教材」として用い、「授業」を作っていくのかということを実践的に学んでゆく講座となる。多数者の前で「授業」する能力の育成が目標となるため、教材研究過程の公開、模擬授業の実践など、多様な学びのプロセスを通じて、自己の思考の論理性や表現能力を客観化し、日本語操作能力の向上の足場をしっかりと築いてもらいたい。 ◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法Ⅱ」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。 ◆現代日本語で書かれた文章素材の味読と分析を通じて、小学校から高等学校の教壇に至るまで、徹底した教材研究と授業準備が教員と学生（生徒）の有意義な対話を作り出してゆくものであることを学んでほしい。				
評価方法				
平常点（出席と模擬授業の内容）50%＋最終試験50%				
教科書				
プリントを配布する				

教えるための古典Ⅰ		春	週1回	2単位
担当者：濱田 寛/有馬 義貴				
講義の目標及び概要				
【内容】 この科目で学ぶ「古典」とは日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、それぞれ8時間目に「中間試験」を実施する。 前半の古文では、用言を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『竹取物語』を読む。 中国古典では、基本的な漢文の語法を学習し、その演習として「散文」作品の読解を行う。文学史に関連して、より専門的な事項についても丁寧な解説を行う予定である。 【カリキュラム上の位置づけ】 教職課程履修者のための科目である。2年生以上の「教科教育法Ⅰ」をすでに履修したものか、並行履修を行っている者が履修できる。 【学びの意義と目標】 将来、生徒たちに教えるためには、古典の豊かな世界を楽しむことができるようになってこそ魅力的な授業が可能になる。				
評価方法				
I 日本古典文学の読解力:50% II 漢文学の読解力:50% * どちらの授業も以下の2点を勘案する 平常点(出席状況・小テストなど):25% 中間試験:25%				
教科書				
村松明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法 改訂版』明治書院				

教えるための古典Ⅱ		秋	週1回	2単位
担当者：濱田 寛/有馬 義貴				
講義の目標及び概要				
【内容】 前半の「漢文」では、「韻文」を中心に扱う。具体的には『詩経』から唐詩までの中国の韻文の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。後半の「古文」では、助動詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『徒然草』を読む。 【カリキュラム上の位置づけ】 教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅰ」をすでに履修した者が受講できる。 【学びの目標と意義】 人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。文法もまた同じことが言えよう。				
評価方法				
I 日本古典文学の読解力:50% II 漢文学の読解力:50% どちらの授業も 平常点（出席と毎時間の小テスト）（25%）と 中間試験（25%）を総合して評価				
教科書				
プリントを配布する 松村明・梨坂隆三『わかりやすい古典文法』明治書院				

教えるための古典Ⅲ		春	週1回	2単位
担当者：濱田 寛/有馬 義貴				
講義の目標及び概要				
【内容】 前半の「漢文」は、「史書」を中心に扱う。具体的には『春秋』三伝の比較対照を行いつつ「春秋の義」について学び、また高等学校の教材として定番ともいえる『史記』について、知見を深めたい。後半の「古文」は、助詞を中心に古典文法の基礎を学習し、演習として『伊勢物語』を読む。 【カリキュラム上の位置づけ】 教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅱ」をすでに履修した者が受講できる。 【学びの目標と意義】 人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。				
評価方法				
I 日本古典文学の読解力:50% II 漢文学の読解力:50% どちらの授業も 平常点（出席と毎時間の小テスト）（25%）と 中間試験（25%）を総合して評価				
教科書				
プリントを配布する 村松明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法』明治書院				

教えるための古典Ⅳ		秋	週1回	2単位
担当者：濱田 寛/有馬 義貴				
講義の目標及び概要				
【内容】 この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。日本の古典では、和歌の修辞法や敬語法について学習し、演習として『古今和歌集』・『新古今和歌集』・『枕草子』を読む。後半の漢文では、中国文学史を軸に、様々な作品を鑑賞する。また、日本漢文学についても理解を深めることになる。 【カリキュラム上の位置づけ】 教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅲ」をすでに履修した者が受講できる。 【学びの目標と意義】 人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。				
評価方法				
I 日本古典文学の読解力:50% II 漢文学の読解力:50% どちらの授業も 平常点（出席と毎時間の小テスト）（25%）と 中間試験（25%）を総合して評価する				
教科書				
プリントを配布する 松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法 改訂版』明治書院				

オペレーションズ・マネジメント		秋	週2回	4単位
担当者：柴田 武男				
講義の目標及び概要				
生産現場における生産性改善の手法を、理論面と実践面から講義する。理論においては、業種による手法の相違を学び、実践面は産業グローバル化の中で顕在化する国内外における手法の相違、さらには国境を超えた手法の移転の実践を学ぶ。その目的に適用される科学的手法については、数学的な講義は省き、理論の概念的な説明にとどめる。 講義は、3名の実業界出身の講師による、オムニバス方式を採る。第1回から10回までは、情報産業界に勤務した講師がその実務経験を踏まえて講義する。第11回から20回までは、化学産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第21回から30回までは、食品産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。 各講師とも、活発な質疑応答を伴う、双方向性ある講義を望んでいる。				
評価方法				
3名の講師それぞれの最後講義において、レポート課題が提示される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。				
教科書				
プリントを配布する				

おもちゃ論		春	週1回	2単位
担当者：森下 みさ子				
講義の目標及び概要				
1. 内容 おもちゃは、人間社会の入口にいる子どもにとって不可欠なモノであるだけでなく、大人と子ども、ヒトとヒトを媒介し、同時に時代や社会を映し出す力も持っている。おもちゃを手がかりに、子どもの世界をさぐり、大人と子どもの関係を模索し、合わせて伝統から流行まで時代が指示するものを読み解いていく。				
2. カリキュラム上の位置づけ 子どもに対する基本的な考え方を学んだ上で、その応用・展開として聴いてほしい。				
3. 学びの意義と目標 具体的なおもちゃを扱いながら、子どもの世界について考えるだけでなく、モノを媒介に遊びの場を創造してきた人間社会をも照射することを試みる。子どもにとっての意味、現代社会における意味など、おもちゃを媒介として見えてくるものを把握すると同時に、おもちゃに対する見解を持ちうるように、個々のおもちゃ観を育てることを目標としたい。				
評価方法 リアクションペーパー30% 期末テスト70%				
教科書 授業の中で指示する				

音楽・合奏指導 A		春	週1回	1単位
担当者：田中 美佳子				
講義の目標及び概要				
近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。 もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独特のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶことである。 オーケストラを基本にして行う。				
評価方法 出席と授業態度、期末試験をもって行う。				
教科書 授業の中で指示する				

音楽・合奏指導 B		秋	週1回	1単位
担当者：田中 美佳子				
講義の目標及び概要				
近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。 もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独特のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶことである。				
評価方法 出席と授業態度、期末テストをもって行う。				
教科書 授業の中で指示する				

音楽・合奏指導 C		春	週1回	1単位
担当者：東海 千浪				
講義の目標及び概要				
近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。 もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。 オーケストラを基本にし、それぞれの担当する楽器の基本的な演奏技術を、合奏においてどう活かしていくのかを学ぶ。				
評価方法 普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。				
教科書 授業の中で指示する				

音楽・合奏指導D	秋 週1回 1単位
担当者：東海 千浪	
講義の目標及び概要	
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>オーケストラを基本にし、それぞれの担当する楽器の基本的な演奏技術が、合奏においてより良く応用できるよう、実践の中で学ぶ。</p>	
評価方法	
普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。	
教科書	
授業の中で指示する	

音楽・合奏指導E	春 週1回 1単位
担当者：村山 良介	
講義の目標及び概要	
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>オーケストラを基本に行うが、各パート、セクションのアンサンブルも行う。</p>	
評価方法	
普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。	
教科書	
授業の中で指示する	

音楽・合奏指導F	秋 週1回 1単位
担当者：村山 良介	
講義の目標及び概要	
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>各パート、セクションのアンサンブルを中心にし、その基本的なアレンジを学びながら、よりレベルアップしたオーケストラのあり方を実践を通して学ぶ。</p>	
評価方法	
普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。	
教科書	
授業の中で指示する	

音楽・合奏指導G	春 週1回 1単位
担当者：山田 裕治	
講義の目標及び概要	
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>よりレベルアップしたアンサンブルとオーケストラを中心に進めながら、基本的な指揮法もまなぶ。</p>	
評価方法	
普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。	
教科書	
授業の中で指示する	

音楽・合奏指導H		秋	週1回	1単位
担当者：山田 裕治				
講義の目標及び概要				
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>各パート、セクションに気を配りながらオーケストラ全体をまとめられるように、実際に指揮をすることも含めて学ぶ。</p>				
評価方法				
普段の授業態度、出席、期末試験をもって行う。				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽・器楽C		春	週1回	1単位
担当者：笠井 かほる/渋谷 みどり/塚原 晴美/島崎 美知子/矢持 真希子/池上 真理子/阪 まどか				
講義の目標及び概要				
<p>保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの震度についてチェックし、それぞれに相応しない課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げていくことになる。</p>				
評価方法				
普段の授業に臨む姿勢と出席、期末試験により行う。				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽・器楽D		秋	週1回	1単位
担当者：笠井 かほる/渋谷 みどり/塚原 晴美/島崎 美知子/矢持 真希子/池上 真理子/阪 まどか				
講義の目標及び概要				
<p>保育の現場や教育の現場においてピアノを活用するための基礎的な技術と表現法を学ぶ。それぞれの進度と力量についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組むことになるが、課題については幅を広げていくことになる。</p>				
評価方法				
普段の授業に臨む姿勢と出席、期末試験により行う。				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽・声楽		春	週1回	1単位
担当者：藤田 明				
講義の目標及び概要				
<p>1) 内容 この授業は小学校や幼稚園、保育所についての知識を学びながらこどもの歌を取り上げて詩の内容を深く理解しながら歌えるように、歌唱表現の基本を学ぶ。</p> <p>2) カリキュラム上の位置 声を使った表現（歌唱、朗読、発声についての知識など）全般について研究する。</p> <p>3) 学びの意義と目標 こどもに歌を歌ってあげたり、こどもと一緒に歌うことは、音楽教育の中で最も大切な要素である。こどもに良い影響を及ぼすような歌唱技術とセンスを学んでほしい。</p>				
評価方法				
試験40% 発表40% 出席20%				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽・ハンドベルA		春	週1回	1単位
担当者：本田 晃				
講義の目標及び概要				
<p>近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。</p> <p>この授業の目的の一つである。</p> <p>また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。</p> <p>その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。</p> <p>ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、深く学ぶ。</p>				
評価方法				
<p>出席35%と授業態度35%、学期末テスト30%をもって行う。実技を伴うので、欠席しないこと。</p> <p>積極的に授業に参加すること。</p> <p>学期に一度、全学礼拝での讃美を予定。</p>				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽・ハンドベルB		秋	週1回	1単位
担当者：本田 晃				
講義の目標及び概要				
<p>近年、キリスト教の幼稚園・小学校、公立小学校などにおいて、ハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。</p> <p>この授業の目的の一つである。</p> <p>また、ハンドベルは固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。</p> <p>その実践を通して、お互いを認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。</p> <p>ハンドベルの演奏技術の基礎をふまえ、より一層深く学ぶ。</p>				
評価方法				
<p>出席35%と授業態度35%、学期末テスト30%をもって行う。実技を伴うので、欠席しない事。積極的に授業に参加する事。学期内に全学礼拝での讃美を予定。</p>				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽A		春	秋	週1回	1単位
担当者：村山 順吉					
講義の目標及び概要					
<p>〈目標〉 小学校音楽科を理解するために必要な基礎的技能を、ピアノ演奏の基礎を中心に学びながら習得する。</p> <p>〈内容〉 楽譜を読むのに必要となる基本的な知識を学ぶため、少人数に分けて講義とピアノを並行して行なう。教材は小学校で扱う楽曲を含め、受講者の音楽性の陶冶に適したものを取り上げる。尚、クラス分け等の詳細は、授業時に指示する。</p>					
評価方法					
普段の授業に臨む姿勢と小テスト、期末テストを総合して行う。					
教科書					
授業の中で指示する					

音楽B		春	秋	週1回	1単位
担当者：藤田 明/星野 直子					
講義の目標及び概要					
<p>1、内容 この授業は、小学校や幼稚園、保育所で行われる音楽活動に対応出来るように、音楽の基礎知識と表現力を身に付けるため、ソルフェージュや鑑賞、歌唱を行う。</p> <p>2、カリキュラムの位置づけ 音楽表現入門的な位置づけであり、音楽表現のための最も大切な基礎能力を養うものである。</p> <p>3、学びの意義と目標 小学校や幼稚園、保育所で扱われる音楽をこどもの状況や発達に応じて役立てる為に、音楽表現のための最も大切な基礎能力(読譜力)を養う。</p>					
評価方法					
試験60% 授業に於ける積極性20% 出席20%					
教科書					
『全訳コールユーブンゲン』全音楽譜出版社					

音楽科教育法		春	週1回	2単位
担当者：村山 順吉				
講義の目標及び概要				
<p>(目標)</p> <p>小学校音楽家の歴史、目標、内容、指導法および評価について概説する。さらに、授業実践についての基本的な考え方、捉え方などを学び、これからの授業実践について考察する。また、音楽教育の方向性を探求し、実践能力を養う。</p> <p>(内容)</p> <p>講義をもとに、音楽教育の意義を理解し、授業づくりを行う。</p>				
評価方法				
出席状況、平常点、その他総合的に評価する。				
教科書				
授業の中で指示する 文部科学省『最新初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』音楽之友社				

音楽創造論		秋	週1回	2単位
担当者：村山 順吉				
講義の目標及び概要				
<p>目的は次の2点である。</p> <p>(1)「音楽とは何か」というテーマに対する先進の人々の学説を学びながら、ヒトとして生きようとするいのちと音楽の関係を探る。</p> <p>(2)手作り楽器等を用いて、実践的な側面から、ヒトとして生きようとするいのちと音楽の関係を探る。</p>				
評価方法				
授業態度と出席、毎時間のミニレポート、期末試験をもって行う。				
教科書				
授業の中で指示する				

音楽を通して学ぶ文化と英語		秋	週2回	2単位
担当者：K. O. アンダスン				
講義の目標及び概要				
<p>1. 内容：この授業では子供時代から老年に至るまでの人生のさまざまな時期について歌われている最も優れたポップ&#8226;ソングに注目する。授業で取り上げた全ての歌について検討する。また受講生は自分で1・2曲の現代のポップ&#8226;ソングを選び、それについてのオーラル・レポートを発表することが課せられる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：現代の英国民衆文化を通して英語表現を学ぶ。</p> <p>3. 学びの意義と目標：英語の歌詞の意味を多方面から分析する力を養う。</p>				
評価方法				
<p>10% 出席</p> <p>30% 小テスト結果</p> <p>30% 宿題（レポート）提出結果</p> <p>30% 期末試験結果</p>				
教科書				
プリントを配布する				